

宮崎善仁会病院 リウマチセンターニュース

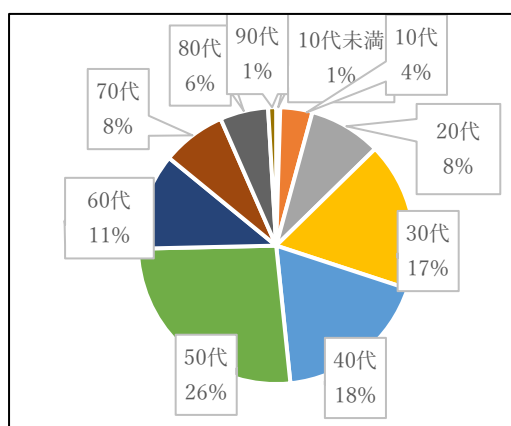
第49号 (2026年6月号 [2026/6/8 発行])

梅雨の季節となり、あちらこちらであじさいの花が色づきはじめました。今回のリウマチセンターニュースは、看護師の泉が担当いたします。



当院では、2024年8月19日から2024年11月18日までの期間に、在宅で生物学的製剤の注射を行っている患者さんを対象にアンケート調査を実施いたしました。ご協力いただきました皆さまに、心より御礼申し上げます。今回、その結果をまとめ、外来看護の振り返りと今後の課題について検討し、2026年2月7日に開催された「RAトータルマネジメントフォーラム」にて発表いたしました。今回は、その内容の一部をご報告させていただきます。

まず、リウマチと診断された年齢は、平均49.3歳でした。年齢別の内訳は、下記の表の通りです。ぜひご覧ください。



また、生物学的製剤を在宅で注射されている方のうち、約半数は60歳以上でした。注射の継続年数は、0～4年が43%、5～9年が34%、10～14

年が13%、15～19年が9%、20年以上が1%でした。多くの方が、長期間にわたり在宅注射を継続されていることが分かりました。

注射を開始する際に「不安があった」と回答された方は45.8%でした。不安の内容としては、

- ① 自分で注射ができるか
 - ② 効果や副作用、感染症への不安
 - ③ 体調不良時にどう判断すればよいか
 - ④ 金銭的な負担
 - ⑤ 手順通りに注射できるか
 - ⑥ 注射する時間を確保できるか
- などが挙げられました。

実際に注射を行っている方の内訳では、ご自身で注射されている方が82%、ご家族に注射してもらっている方が13%、訪問看護師に注射してもらっている方が4%でした。一方で、注射開始時に看護師から説明を受けたことで、「不安や困ったことが解消された」と回答された方は全体の94%でした。看護師による説明や手技確認が、在宅注射を始めるうえで大きな支えになっていることが分かりました。使用されている注射のタイプは、注射器タイプが17.5%、オート式が81.1%でした。現在は、操作しやすいオート式を使用されている方が多い傾向にあります。在宅で生物学的製剤の注射を行うなかで、「困ったことがある」と回答された方は45.8%でした。そのうち半数以上の方が、病院へお問い合わせをされました。相談内容としては、

- ① 注射後に内出血した
 - ② 停電時の薬剤の保存方法
 - ③ 注射器の針がうまく出てこなかった
 - ④ 新型コロナウイルス感染時、予防接種時、抜歯時の対応
- などがありました。

また、「自己注射をやめたいと思ったことがある」と回答された方は30.7%、「思ったことはない」と回答された方は66.0%でした。

自己注射をやめたいと思ったことがある方のうち、医師や看護師に相談された方は27.7%で、相談されなかった方は70.8%でした。相談しなかった理由としては、

- ① 注射をやめると症状が悪化するのではないかと考えた
- ② 年齢を重ねるにつれ、今後のことや金銭的な負担が気になる
- ③ 自分なりに考え、自分のために必要な治療だと納得した

などのご意見がありました。

これらの回答から、患者さんは日々の生活の中で「注射をする」という行為を受け入れながらも、継続していく中でさまざまな不安や葛藤を抱えていることが分かりました。また、症状が悪化した時のつらさや痛みを思い出し、「やめたい」と思っても相談せず、ご自身の中で気持ちを整理されている方もおられることが分かりました。

【今後の当院での取り組み】

当院では、患者さんの発症年齢、基礎疾患、生活環境、ライフスタイルに合わせて、安心して在宅注射を継続できるよう、リウマチケアに取り組んでまいります。医師、薬剤師、看護師、ソーシャルワーカーなど多職種で情報を共有し、それぞれの患者さんに合ったサポートを行ってまいります。来院時には、在宅注射について困っていることがないかを確認し、必要に応じてデモ機を使用しながら、注射手技の確認やご相談に対応できる

よう努めてまいります。「少し気になる」「これで合っているのかな」と思うような些細なことでも、どうぞ遠慮なくお声かけください。

また、感染症にかかった時、予防接種を受ける時、抜歯や手術を予定している時などには、注射を一時的にお休みするタイミングや再開するタイミングを確認する必要があります。自己判断で中止・再開せず、医師または看護師へご相談ください。患者さんが安心して治療を続けられるよう、今後も外来スタッフ一同で支援してまいります。



【暑くなります】

生物学的製剤は、温度の変化でタンパク質が変化します。これくらい大丈夫と過信せず、注射を持ち運びする際は、必ず保冷剤を入れた保冷バッグを使用しご自宅に帰った際は、忘れずに冷蔵庫へ保管して下さい。



【電話お問い合わせについてのお願い】

リウマチ科外来には、患者様よりお問い合わせのお電話が多数あります。お電話は、一旦、事務のものが要件をお伺いしまして、折り返し看護師より診療の合間でお電話いたします。緊急時ではない予約変更やお問い合わせは、午後にご連絡をいただけるとたすかります。ご協力をよろしくお願いいたします。

リウマチセンターニュースのバックナンバーの必要な方は当院の職員に気軽にお尋ね下さい。なお、当院のホームページでもバックナンバーを確認出来ます。

(https://www.m-zenjin.or.jp/publicity_cat/publicity_1)

(QRコードは右の通り)

